

## 「揖保川を語り、生かす集い」網干会場 結果概要

日 時：平成15年5月11日（日） 14:00～16:30

場 所：姫路市 網干市民センター 大ホール

参加者：委員9名、発表者5名、河川管理者15名、一般参加者67名

### 1. 開会

開会挨拶 藤田委員長

### 2. 揖保川流域委員会について

「河川整備計画について」 国土交通省姫路河川国道事務所 那須所長

「揖保川流域委員会の活動状況について」 藤田委員長

### 3. 住民からの意見発表

河盛史郎氏(姫路市、明日を語る西姫路住民懇談会)

- ・今年3月に京都で開催された「第3回世界水フォーラム」においても、貴重な水資源をいかに大切にするか、いかに水を汚さないでおくかといったことが強調され、我が国では、水問題を総合的に解決するため、各省庁間の垣根を取り払う水基本法の制定が求められている。揖保川の問題を考えると、どうしても各省庁の関係する問題、国・県・自治体の調整が必要な問題が多くあり、河川整備計画の策定にあたって、単に国土交通省所管の領域だけの問題に限るのではなく、総合的な検討をお願いしたい。
- ・流域下水道の問題について、水量が減ること、処理水の水質がよくないことの2つが、どこの地域でも問題になっているということを聞いたが、やはり揖保川においても流域下水道が進むにつれて、この2つの問題が出てきているのではないかとということを実感している。揖保川で採用している活性汚泥法は、工場排水が混ざる流域下水道の場合、不適当な処理方式であると思う。また、活性汚泥法で出てくる余剰汚泥は焼却処分されているが、これが原因で近隣では悪臭の苦情が絶えない。そういう点を含めて考えると、流域下水道ではなく、個々の地域でその水に適した方式で処理し、処理した水を川に戻し、窒素やリンなどの余分なものは川の自然の作用で浄化する方式が妥当と考えている。
- ・揖保川からの工業用水の契約水量は、新日鐵の高炉休止という生産量の大きな縮小があったにもかかわらず、ほとんど変わっていない。現在は、排水規制が濃度規制となっているが、絶対値の規制を加味して契約使用水の値段を改定することによって、もっと工業用水の無駄遣いを省くことができると思う。
- ・数年前から浜田地区の畑、揖保川の中州の畑から塩分が出はじめたということを経験している。揖保川の河川改修で川底をコンクリートで固めるという工事をした時期から塩分が出はじめたということなので、伏流水と表流水の水位の問題を絡めて、その原因を解明していただきたい。
- ・揖保川の河口部は、昔はたくさんの貝がとれる優れた漁場であった。しかし、一時汚染された水質が回復してからも、稚貝、稚エビを放流してもなかなか育たないということを漁師さんが話している。その影響として、現在の流域下水道の水処理の問題に原因があると考えている。

小野広治氏(姫路市)

- ・川はやはり美しく流れてこそ揖保川だと思う。河口付近たくさんあるヨシは、小魚のすみかとなり水の浄化作用もあるので、その保護は大事であると思う。
- ・堤防の強度あるいは幅の問題もあるが、松並木や桜並木など揖保川の堤防沿いに植樹をしてい

ただきたい。また、下流部の河川敷に散策道や広いスペースを確保していただき、ところによっては人々の目を楽しませるような草花を植えたりしてもらいたい。

- ・揖保川下流部の興浜地区で火災が起きたときに、目の前に川がありながら消防車が下りられなく、水利に困った経験がある。消火栓だけに頼るのではなく、河川敷に消防車が下りられるようにして、水利を確保できれば被害は少なくすることができるのではないかと。
- ・現在、河川の工事で橋の架け替えをしている場所があり、仮設道路が設置されているが、通学路もある関係で非常に危険と感じている。橋の架け替えがすむまでには、まだ日数がかかると思うので子どもたちのための安全策はないものかと思っている。

瀧本則夫氏(姫路市)

- ・下流部では、現在も国が震災対策工事などを実施しているが、住民にとっては工事の目的や効果がわからない。河口域がどのように変化するのか、例えばそれをコンピュータグラフィックや図面等で知らせていただき、その目的や将来像がわかるようにしていただきたい。
- ・揖保川堤防の道路は、通勤時間帯に非常に渋滞するところが何カ所もある。一般家庭の生活道路に車が入ってくるということもあり、交通事故も心配される。河川改修の際は、堤防の道路を2車線化し、通勤の自動車に供用されるような計画をお願いしたい。
- ・河川敷等に、桜並木があったり、遊歩道があったり、ベンチがあったり、川の中に入れたりするような施設があったりすれば、住民の方も川を憩いの場として利用できると思う。

大脇和代氏(姫路市、姫路市議会議員)

- ・これまで揖保川に公共事業としてどれぐらいの予算が使われてきたかということを知りたい。
- ・住民の中にはいろいろなことを深く考えていらっしゃる方おられるが、なかなか意見が言いにくいというところもあり、今回の集会よりも、もう少し小さい範囲で、流域の村々でも意見を聞けるようにしていただきたい。
- ・揖保川に高瀬舟が行き来していた時代のことなど知らない方も多いため、そういう揖保川の歴史、文化、そこでかかわってきた暮らしなどがわかり、そこに行けば、意見も述べられるという場所があればいいと思う。例えば、網干の余子浜にあり、江戸時代の「蔵元」で廻船業も営んだ加藤家が、今は空き家になっているが、お金をかけて新しく何かをつくるのではなく、今ある施設を存分に利用して何か（高瀬舟資料館とか）できるのではないかと。
- ・余部に桜づつみができているが、網干の河口にも、桜の下で揖保川に触れる場が求められている。いろいろなハードルがあると思うが、情報の公開をもっと進めていただければ、住民の皆さんはいろいろなアイデアや意見を持っているということを感じている。

圓尾哲也氏(姫路市、西播愛鳥会)

- ・揖保川の下流域は、冬季にカモの渡来地となっており、特に林田川との合流点から下流は特筆すべき渡来地と言える。ここに、コハクチョウ、オオハクチョウ、ヒシクイ、ツクシガモなど大型の野鳥がやってくるということは、彼らにとって安心してとどまることのできる環境があるからであり、林田川合流点から下流の区間は、できるだけ現状の自然を残した状態の整備をしていただければと考えている。
- ・その他にも揖保川には多くの野鳥が見られる（ハクセキレイ、ノスリ、アオサギ、コサギ、キジ、コミミズク、タゲリ、ユリカモメ、カンムリカイツブリ、コガモ、ホシハジロ、カワウ、カワセミ、コチドリ、ハマシギ、チュウシャクシなどの紹介がスライドを用いて紹介された）。これは、それだけ多様な自然が揖保川にあるからであり、自然観察会などの環境教育の場として有効に利用していけばと考えている。

意見発表後、参加者より次の発言がありました。

理美容業界、クリーニング業界の排水からは化学物質が排出されている。一般家庭から化学物質を出さなくてもいい方法があるので、行政から一般の方への教育を徹底していただきたい。合成洗剤を使わず、石けんを作り、使っていただくための活動を行っているが、子どもたちに本当にいい水が残してやれるのだろうか、というのが今も続いているメッセージである。一人一人の生活者が賢い消費者であるようにという言葉がよく言われるが、そうではなく、自覚ある消費者になっていただき、私たちは、有害化学物質をいっぱい家の中に取り込んで暮らしている、大変なリスクを受けて生活をしているということを認識していただきたい。また、揖保川のいろいろなところで、頻度をもっと増やして水質検査をしていただき、その変化などを調べていただくようお願いしたい。

消火栓は、その口がたくさんあっても、水圧の関係から1か所しか水をとることができない。火災の際、揖保川から直接水源がとれるよう、消防自動車が川に下りられるようにしていただきたい。

播洞川流域では短時間に激しい雨が降った場合に、水の逃げるところがなくなるので、内水排除対策をお願いしたい。また、子どもが学校へ行っているときにそのような雨が降った場合、どこへ待避させるのかということも検討していただきたい。

#### 4. 話題提供

「揖保川の舟運と網干地域の発展」増田委員

「干潟の自然環境」 栃本委員

#### 5. 意見交換

参加者より次の発言がありました。

環境の変化からくる大水対策を川だけで引き受けることには無理があるのではないかと感じる。針葉樹になった山をブナ林に戻すとか、道路のアスファルト舗装の浸水とかの対策で、すべて川に負荷がかかるようなまちづくりのあり方を見直していかなくてはいけない。それから、姫路では消火対策が非常に大事になっており、公園とか校庭の下に大きな貯水池をつくるなど、雨水を中水として利用するようなまちづくり計画がもっと取り入れられていかなければいけない。

揖保川の井堰の上流には泥がたまり、自然の浄化作用がなくなっており、その川底をどう取り除くかが問題となる。また、川の中に藻が生えているのも良い状態とは言えない。河川工事の際は、自然浄化が行われるような川を考えてほしい。

網干水門ができる前は、大水のとき網干川の方へ水が流れるような自然の対策があったが、今はそこをせき止め、揖保川下流部で川幅を広げている。また、昔はハゼやエビがいた環境も今はなくなっている。大金をかけてなぜそんなことをしたのか、今でも不思議に思っている。

揖保川をいい川にするために、コンクリートブロックの護岸でなく、捨石の護岸にしてほしい。子どもが川へ行くときの危険も減らせるし、海にいる生物や川にいる生物が集まってくることができるようになる。川は自然であってほしい。

揖保川ではできるだけ自然を大事にしてください、やむを得ず工事が必要なところは、こういう事業をしないと住民の暮らしが守れないのだということをきちんと情報公開して進める手法をとってほしい。また、行政と住民の取り組みにより水質は改善されたのだが、そこに住む生物が40年前、50年前からどのように変化してきたのかという具体的な調査結果を住民に教えてほしい。

#### 6. 閉会